

「(仮称)下水道における防災・機能保持に向けた基盤強化」の計画概要

(社会資本総合整備計画)

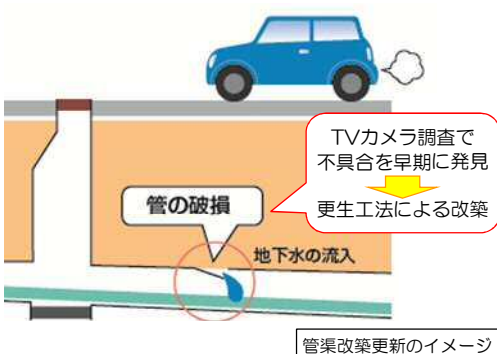
計画の概要	計画の成果目標(定量的指標)				
	成果目標	定量的指標	現況値	中間値	目標値
◎計画の期間：平成27年度～平成30年度(4年間)	浸水対策率を 70.6%(H27当初)から79.2%(H30末)に増加	浸水対策率 (%)	70.6%	-	79.2%
◎計画の目標： 国土強靱化に向けた「防災・救援首都」としての機能強化を目指し、災害に強い都市づくりを推進するとともに、安定した下水道サービスの提供に努め、市民の安心・安全な暮らしを守る。	老朽管の改築延長を 0.8km(H27当初)から26km(H30末)に増加	老朽管の改築延長 (km)	0.8 km	-	26 km
	重要幹線の耐震化延長を 2.2km(H27当初)から5.9km(H30末)に増加	重要幹線の耐震化延長 (km)	2.2 km	-	5.9 km
◎総事業費：約557億円	合流式下水道改善率を 58%(H27当初)から87%(H30末)に増加	合流式下水道改善率 (%)	58%	-	87%

○基幹事業：山田雨水ポンプ場、大石貯留管ほか

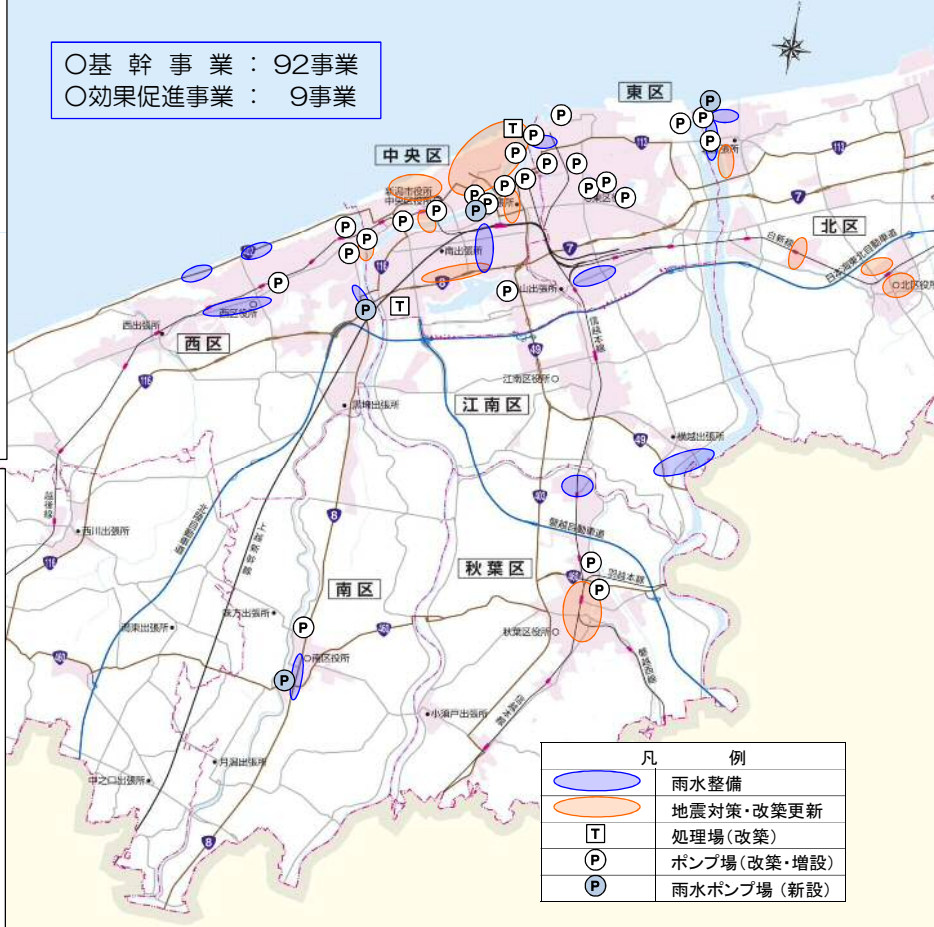


山田雨水ポンプ場や大石雨水貯留管など、緊急度が高い地区の施設整備を行い、浸水被害の最小化を図る

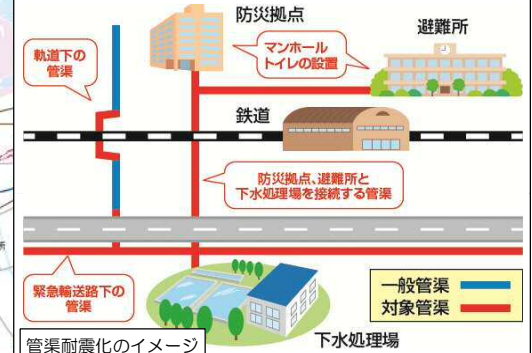
○基幹事業・効果促進事業：船見処理区ほか



老朽化が進んでいる船見処理区の管渠を中心に点検・調査を行い、計画的な改築更新を実施



○基幹事業：鳥屋野幹線、近江幹線ほか



鳥屋野幹線や近江幹線など、防災上の優先度が高い管渠(緊急輸送路下の管渠など)の耐震化を推進

○基幹事業：中部下水処理場、各ポンプ場

